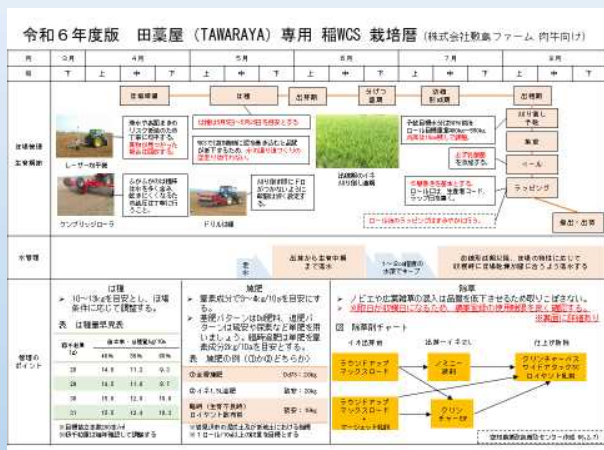


# 2 乾田直播栽培による稲WCS生産

## 栽培暦を作成し、栽培技術や注意点を共有



栽培暦(表面)



補足情報(裏面)

# 3 生産組織「田藁屋」の取り組み

## 田藁屋の概要

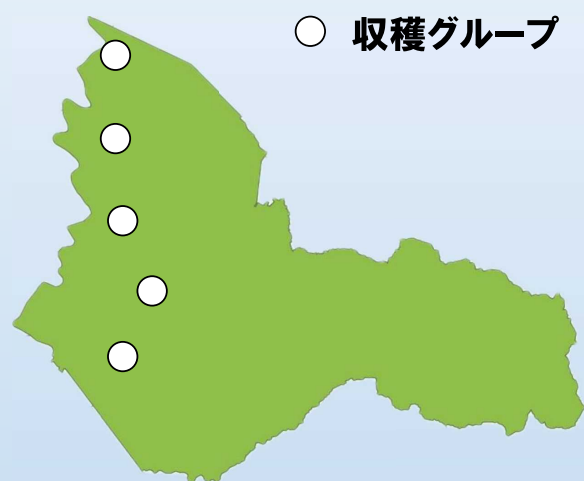
代表 濱本 壮男

令和6年度予定

参画戸数 32戸

5収穫グループ(令和5年度時点)

作付面積 188ha



岩見沢市

取引相手

白老町「敷島ファーム」

※状況に応じて他の出荷先も検討

## 田藁屋設立までの道のり

2021年

11月末に水田活用交付金の厳格化が発表される

2022年

1月に敷島ファームとファーストコンタクト

約2haで試験栽培、出荷し、品質、数量などのすり合わせをした

2023年

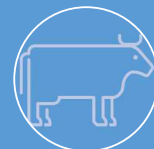
3月に「田藁屋」設立し、約110haで栽培し出荷した

次年度産へ向けて品質面のフィードバックを受け、栽培方法を見直し

## 岩見沢では手に入りにくいたい肥を入手



岩見沢市  
田藁屋



白老町  
敷島ファーム



稲WCS

売買

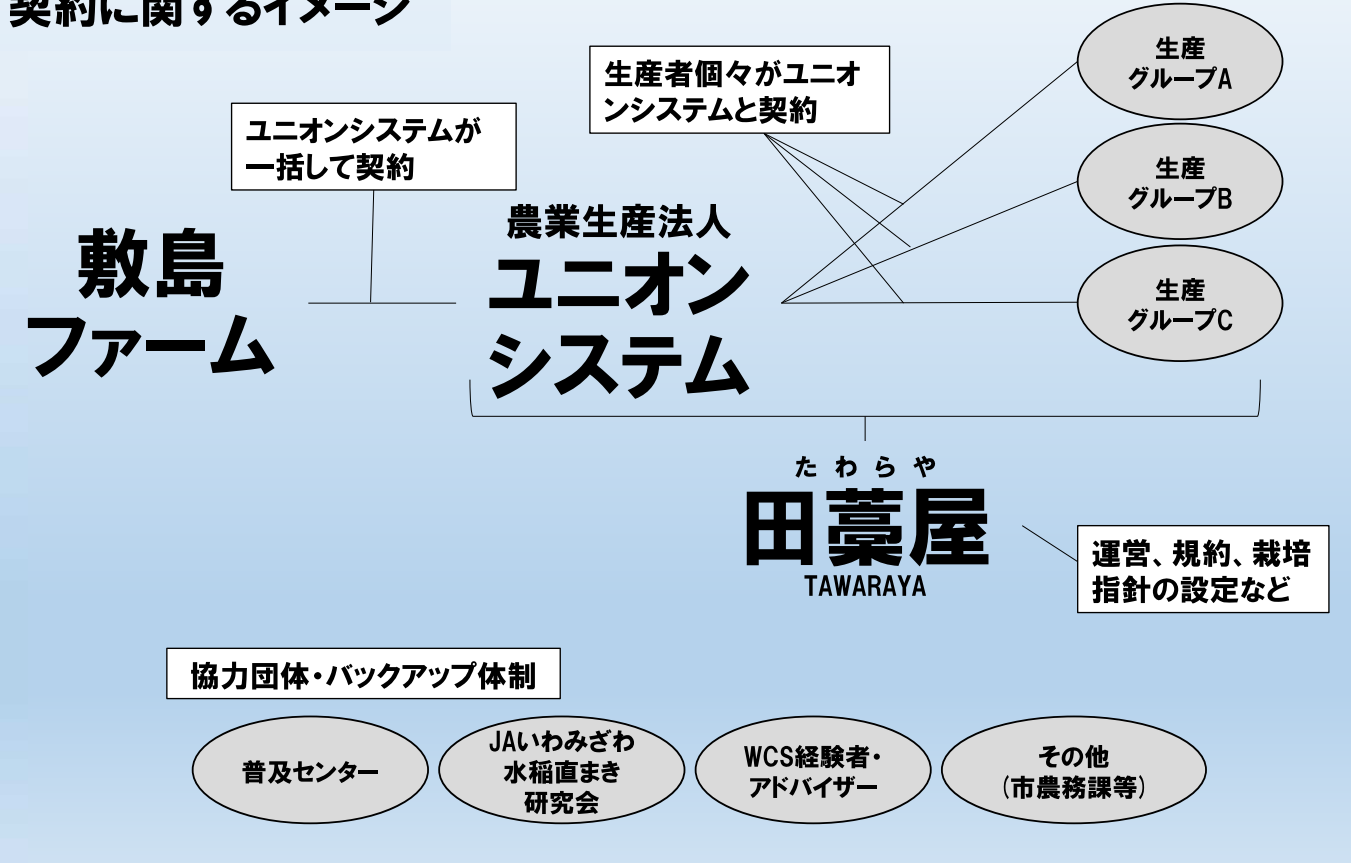


ペレットたい肥  
(開発中)

岩見沢で生産したWCSを白老の和牛生産法人に販売・運搬し、その帰り荷にペレット堆肥を持ってくる。

### 3 生産組織「田藁屋」の取り組み

#### 契約に関するイメージ



### 乾田直播水稻で稲WCSに取り組む省力ポイント<sup>12</sup>

ダイレクト型専用機  
約2ha/日



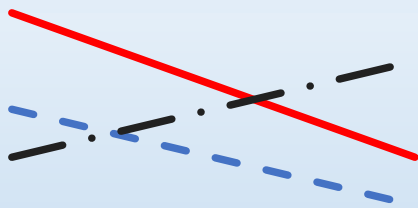
タカキタHPより

牧草、麦稈共用ロールベラー  
約10ha/日



ビコンジャパンHPより

乾直ほ場は刈り倒し時期に**ほ場が乾きやすく固いため**、**牧草、麦稈共用のロールベラーを用いることができる。**



イネの生育が進むにつれ飼料栄養価(タンパク質)と水分は低下し、乾物重とデンプン・糖、ビタミンAは増加する

8月上旬

9月上旬

— 飼料栄養価    .... 水分    — 乾物重

## 収穫時期と品質ファクターの関係(イメージ)

令和5年産の結果から令和6年度は、予乾水分は50%前後、ロール重量400kg~550kgを目標として生産する

# 乾田直播水稻で稲WCSに取り組む省力ポイント<sup>14</sup>

## 収穫作業グループの内訳

最低4人、5~6人で作業すると滞りなく進む

刈り倒し  
予乾

作業機 モアorモアコンディショナー 3m幅  
朝露がおちた朝7時ころから作業開始のイメージ

集草

作業機 レーキ 6~7m幅  
モアの往復分が片道で終わる計算のため作業早く終わる

べール

作業機 ロールベアラ

ラッピング

作業機 ラッピングマシン

搬出・出荷

作業機 ロールグラブをフロントローダに装着したトラクタ

## これまでの成果

これまでの成果として

- ・取引相手と対等に粘り強く交渉することで、信頼関係を構築した。
- ・生産物の評価を細かく意見交換し、次年度の品質目標を定めた。
- ・低コストの観点から、肥料農薬費は計11,600円、栽培期間は約2ヶ月間短縮した。
- ・省力化の観点から、乾田直播水稻の一般米生産や代かき移植ほ場の稲WCSに対し、牧草用の機械を用いて組織的に収穫作業を実践した。

しかし、

- ・新たな取り組みには機械投資が必要であり、すぐ低コストにはならない。
- ・輪作に組み込むため複数年単位で見ることや、作業受託による収益を含めて計算する必要がある。

## 今後に向けての課題

- ・田藁屋として、新規参画する農業者に対して作業体系を正確に伝達し、品質を均一に保っていく。

また、

- ・現在用いている水分計では目標とする50%前後の水分を計測できないため、刈り倒してから何時間でどの程度水分が抜けていくのかなどの知見を積み上げる必要がある。
- ・たい肥を活用し、化学肥料を減らした農産物として有利販売につなげる道筋を見つけない。

田藁屋の取り組みは始まったばかりで課題が山積み  
ひとつずつ解決していく





**ご清聴ありがとうございました**